

心のけんこう

香川県精神保健福祉センター

〒760-0068 香川県高松市松島町1-17-28
香川県高松合同庁舎内 ☎ 087(804)5565

題字 香川県知事 浜田 恵 造

目次

心の声	1
特集 自殺予防対策	
自傷行為の理解と援助～「故意に自分の健康を害する」若者たち～	2
薬物関連問題介入の基礎を学ぶ	4
センター掲示板	6

心の声

香川県精神保健福祉センター 所長 藤岡 邦子

私は映画が好きで、劇場でもDVDでもよく観ます。映画を観る醍醐味の一つに挙げたいのは、理屈で知っていることが、感覚的にストンと腑に落ちる場面に出会えることです。

ここにご紹介する映画も、そのような体験をさせてくれた作品です。タイトルはThe Hours。邦題は「めぐりあう時間たち」で、何か国語的には、ちょっと変ですが。

ニコール・キドマンがヴァージニア・ウルフに扮してアカデミー賞主演女優賞を獲得した映画ですので、ご記憶の方も多いかと思います。ヴァージニアは精神に変調を来し自殺未遂があったりしたため、夫とともにロンドンから田舎に移り住んで監視されながら執筆活動をする毎日でした。ところが、その生活に息が詰まり、衝動的にロンドン行きの汽車のプラットフォームに立ちます。そこに駆けつけた夫とのやり取りが印象的です。夫が「君に治って欲しいから」とか「幻聴のせいだ」と言うのに対しヴァージニアは「私自身の心の声よ。田舎に住み望みもしない人生を送るなら死んだ方がまし。深い闇の底に沈み一人でもがいている、その感覚は私だけにしか分らない。」「私の人間としての権利で選ばせて。田舎より都会の暴力的な刺激に身をさらしたい。どんなに慎ましい患者にも自分のことを決める権利がある、それが人間性の証よ。」と絶叫します。その後、夫は「ロンドンに帰ろう」と答え、ヴァージニアの表情は和いでいきます。

ケースが無理を言うときの常套句に「自分のことは自分が一番よく分かっている」と言うのがありますが、無理かどうか、それをまずしっかり聴かせてもらわなくてはと改めて思いました。センターではお互いに、そのように仕事ができているかどうか確かめ合いながら進んでいます。

